

えもんみっけ!

～市民レポーターのページ～

夏休み 特別企画

こども市民 レポーター



1

学校でもらった
案内をみて **応募**

毎号、広報こまきで掲載されている「市民レポーター」のページ・えもんみっけ」の特別企画「こども市民レポーター」を今年も開催し、10人の小学生が参加しました。

この企画は、市内の小学5、6年生が、市内のさまざまな企業を取材して広報の紙面を作るものです。見学会や体験ツアーと違い、事前研修などもあり、本格的な紙面作りを行います。

事前研修では、記事の書き方やルールなどを学びます。そして、取材先のホームページなどを見て、質問事項を考えたり、聞いてみたいことをまとめたりします。また、一眼レフカメラを実際に手にして、撮影方法も学びます。

取材当日には、取材ノートを持ち、取材先担当者の説明をメモし、自分の目で確かめ、質問をします。順番にカメラを持ち、撮影も担当します。

編集日は、それぞれ自宅でもまとめてきた原稿を持ち寄り、記事として取り上げる内容を決め、記事を書きます。掲載する写真を選び、キャッチコピー、レイアウトなどを相談しながら決め、記事をパソコンに入力します。

そして、できあがったものが「こども市民レポーター」によるページです。

ぜひ、子どもたちの作った紙面(4～7ページ)をご覧ください!

2

研修日
7月13日



3

取材日
7月23日



4

編集日
8月6日



5

広報紙発行



こども市民レポーターの皆さん

390年続く美しい和菓子の世界

両口屋是清のお菓子の種類は、季節にもよりますが、常に20種類以上あります。

両口屋是清と言えば「千なり」ですが、その他にも人気商品は「銘菓詰合」、「さらがた」、「をちこち」、「二人静」などがあります。最近では、「夏さらがた」「アイス千なり」「千なり林檎あん」など洋を取り入れた和菓子にも注目が集まっています。両口屋是清



両口屋是清の定番商品「千なり」

両口屋是清は、1634年から続く和菓子の老舗です。愛知県の直営店6つの他、全国に約70店舗があります。小牧工場では、さまざまな種類の和菓子を作っています。和菓子には、どのような工夫があるのでしょうか。小牧工場に行って、聞いてきました。

は、新商品にも力を入れており、企画から完成まで1年くらいから、長いときは3年くらいかかるそうです。味の種類が増える時などは、2カ月



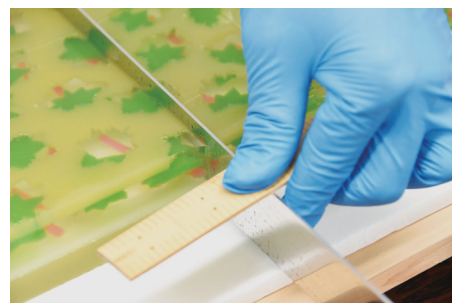
歴史ある和菓子の店

和菓子のお店として有名な両口屋是清には390年の歴史があります。

初代、猿屋三郎右衛門が1634年に名古屋の地にて創業しました。

1671年には創業以来の目標であった尾張藩御用を務めることができました。

創業から約50年を経て、菓子司として武家や町人の間で評判を得ていたそうです。1686年尾張徳川家2代藩主から



大きな1枚のお菓子を手作りで丁寧に切っていきます。

「御菓子所 両口屋是清」の表看板を賜りました。

現在、すべての商品は小牧工場で作られていて、あん、棹菓子、生菓子などそれぞれの専門分野に分かれて和菓子作りをしています。

いろいろな工夫があります

人気商品の工夫を紹介しましょう。夏に人気の「さらがた」は見た目にも季節感を出すよう作られます。また、毎年、新しい味を社員の皆さんで考えます。包装にも工夫があり、手を汚さずに食べることができます。

「沢の翠」を作るときには、寸ではかるものさしを使い、昔ながらの作り方を守っています。



美しいお菓子を作るための道具の数々

今回の取材先

株式会社両口屋是清 小牧工場



場所：間々字浦通り 18
電話：77・2308
小牧工場売店：9:00～17:00・日曜定休

上生菓子はハサミや箸などさまざまな道具を、用途に合わせて使うことでいろいろな形のお菓子を作っています。

このような工夫が詰め込まれた和菓子を作っているのが、両口屋是清です。

ここで作られた和菓子が全国各地に届けられ皆さんのお手元に届いています。



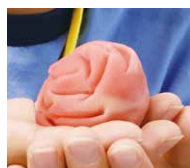
上生菓子「花火」を作っています。

取材の裏側！

7月23日午後、取材が行われました。会議室には両口屋是清の商品や生菓子の素材などが置かれ、取材が始まる前から子どもたちの目がキラキラしていました。取材を終えて、和菓子ファンになったことは間違いありません。



▶当初、体験は予定していませんでしたが、村井さんの「やってみる？」の一言に全員が「はいー」ということで生菓子作りが始まりました。一生懸命、説明を聞きながら真剣に作りました。左の写真は子どもたちが作った「バラ」です。忘れられない経験だったと思います。



▶緊張気味のみんな。「ささらがた」をいただき、一気に元気になりました。



▶棹菓子をカットするところでは、写真を撮ることも忘れてしまうほど。真剣な眼差しがとても印象的。

取材をお願いしました



小牧工場商品開発室長 安田誠一さん④
同 製造3課 村井美月さん④
企画部広報グループ 係長 近藤美香さん

子どもたちの目がキラキラしていました。想像以上に和菓子に興味を持ってくれてうれしかったです。すごく積極的で、取材を受けてよかったです。子どもながらの質問やツッコミがあって、とても楽しい取材でした。



▶見学ではないので、メモを取る、撮影するなど忙しいです。歴史や工夫など質問をして編集日には記事を書きあげます。

▶上生菓子の実演。道具の名前などメモすることにも必死。



私たちが取材に行ってきました



原田 美咲（小水小学校5年）
お菓子作りがとても楽しかったです。上生菓子を作る時の道具も見たことのない物が多く、面白かったです。見た目や食べやすさも考えられていました。いろいろな工夫があったと思います。

簡井 遥生（味岡小学校5年）
上生菓子を実験で作った時、見ていた時よりも難しくて大変でした。職人さんは1分という速さで上生菓子を作るので、とてもすごいと思いました。

石黒 絢子（味岡小学校5年）
私は両口屋是清に行って、一つ一つのお菓子里にそれぞれの工夫がされていると分かりました。手で細かい作業をして、きれいなお菓子が作られていくと思うと、よりお菓子に愛着がわき、好きになりました。

福井 良（米野小学校6年）
両口屋是清では商品になるまでの間、何度も確認された商品が売られている、とてもこだわった商品であることを知りました。和菓子をもっと食べてみたいと思いました。

上田 莉央（米野小学校6年）
両口屋是清ではたくさん質問をして、いろいろなことを知ることができたと思います。皆さんもぜひ買いに行つて、和菓子のことをもっと知ってもらいたいと思いました。

中部エコバイオは廃油を家庭、シヨップイン、グモールのフードコート、デイスービスの施設などから回収しま



廃油が精製される工場の中です

す。愛知県内の回収量は約70から80キロリットルで、関西なども含めると130キロリットルになります。油は1リットル5円で買い取ります。油の回収は約15年前から始めています。回収油で作ったチエンソーオイルは土壌汚染を防ぐことができ、また、回収油でつくったB5軽油をトラックの燃料に使っています。リサイクル



家庭から出た油をざるを通して天ぷらかすを取り除いています。



使った油は環境のためにリサイクル

ルすることで捨てる油を減らすことができます。皆さんも油のリサイクルに協力しませんか。

環境にやさしい取組

中部エコバイオは、ある計画を進めています。まず、篠島・日間賀島で廃食油を回収して、中部エコバイオがチエンソーオイルに精製。根羽村で、チエンソーを使うとき、そのオイルを使うプロジエクトです。チエンソーで木を切るときに飛び散



廃食油をリサイクルして作ったオイルが入ったチエンソーとエコクレヨンです。



廃食油を燃料にして実際に油を回収しています。

る油が環境にやさしいものになります。これで、川から流れる水の汚染を防ぎます。

他にも、廃食油をリサイクルして作ったエコクレヨンがあります。赤ちゃんがなめても、描いてるとき落としても大丈夫な、硬くて描きやすい安全安心のエコクレヨンです。

世界初の船用燃料

2023年11月1日に廃油を燃料とした世界初の船の運航に成功しました。商船三井と協力して、廃食油を直接重油に混合したバイオ燃料を使って運航しました。

このバイオ燃料は国内の植物油由来の廃食油を船用燃料用として直接重油と混合した

燃料で、船用燃料として使用するの国内初の取組になります。小牧にこのような循環型社会、SDGsを実践しているすごい会社があることを多くの市民の皆さんに知ってもらい、応援できたらいいですね。



廃食油を使って、船を動かす世界初の計画を進めています。

今回の取材先

中部エコバイオ合同会社



場所：本庄白池 838-1
電話：54-2751

取材の裏側！

7月23日午前、取材が行われました。代表の上浜さんの挨拶の後、会社内をまわり、説明を受けながら写真を撮ったり、メモを取ったりしました。事務所では、会社の取組などを聞き、子どもたちはたくさんさんの質問をしていました。



▲積み上げられた廃油タンクの説明を受ける子どもたち。写真とメモを取る担当に分かれて取材。ゆうに背の丈を超える高さに驚くシーンも。



◀上手に写真は撮れているのか、不安もあります…。



▲木材を圧縮して出る黒い油を撮影しています。現在、再利用する方法を研究しているそうです。



▲家庭から回収したペットボトルは、ひとつずつキャップを外し、ドラム缶に集められます。普段は、障がい者の就労支援で行われています。今回は子どもたちも体験しました。ドラム缶の中には網があり、揚げ物で出たカスなどが入らないように工夫されています。



◀廃油が精製されるそれぞれの過程

取材をお願いしました



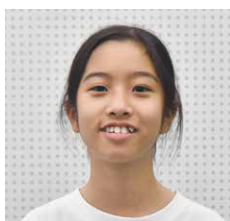
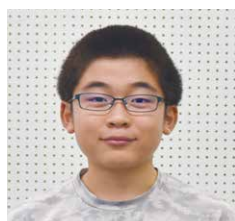
代表社員 上浜 諒さん④
事業部長 小松国夫さん

子どもたちがいっぱい質問してくれたことに驚きました。できればSDGsなどの活動を広めてもらいたいです。「やりたい!」という気持ちが伝わってきて、楽しい取材でした。



▲事務所内では、SDGsや循環型社会などに取り組んでいる事例にたくさんの質問が集まりました。教科書にはない生の声に興味を示してくれました。

私たちが取材に行ってきました



野瀬田 隼輔（小牧原小学校5年）
廃油がリサイクルされ乗り物の燃料に使われていることにびっくりしました。一番びっくりしたのはクレヨンになっていたことです。レポーターをしてみても、取材は緊張したけれど、楽しかったです。

西城 葵（味岡小学校5年）
レポーターをやってみて、初めて取材をし、いろいろ大変なことがあると分かりました。中部エコパイオの思いや願いなどを知り、素敵な会社だと分かりました。

田口 絢音（味岡小学校6年）
いつもは読むだけの記事を自分でつくるなんて、いざやってみると難しかったけれど、油一つにもいろいろな種類があって面白かったです。

西城 純恋（桃ヶ丘小学校6年）
バイオディーゼル、チエンソーオイル、エコクレヨンなど知らなかったことをたくさん学びました。廃油からできた油が船やダンブカーの燃料になることも分かりました。

木下 古都音（小牧南小学校6年）
レポーターをやってみたことは、文を書くときに要約していくことを考えることが難しかったです。見学に行ったときに思ったことは、みんな集中していて良かったと思いました。